てくてく情報

2021年7月号【古河公方公園】
●のんびりてくてく、お散歩してみませんか

●梅雨が明けて夏が始まります

○ハスの花托（かたく）の変化

●今年も見事に咲いた大賀ハスも、徐々に終わりを迎えます。花びらが散ったあとは、中心に残った花托（かたく）が大きくなり、その中で種が育ちます。表面の穴から種が見えるようになり、全体が茶色く変化してしなだれます。そして、風などで花托が揺れることで種が水の中に落ちるのです。

①ハス

○7月の花々

●ウマノスズクサ
・川の土手に多く、ジャコウアゲハの食草になっています。名前の由来は、形が馬につける鈴にいていることから来ています。

②ウマノスズクサ

③ヤブミョウガ

●ヤブミョウガ
・薄暗い林や藪に生え、葉の色や形がミョウガに似ていることが名前の由来です。白い小さな花が咲き、開花中に実もなります。

●カワラナデシコ
・秋の七草のひとつですが、初夏から花をつけます。『万葉集』や『源氏物語』、『枕草子』に登場します。

④カワラナデシコ

⑤イヌゴマ

●イヌゴマ
・和名で犬胡麻といい、果実の形が食用のゴマに似ていますが、食用にならないのでこのような名前になりました。

ミソハギの仲間 エゾミソハギ

⑦エゾミソハギ

●エゾミソハギ
・ミソハギ科の多年草で、ミソハギと比べて背丈が高く、ガクや花に短毛が生えています。

○紫色が鮮やかなミソハギの花

●ミソハギは、日本各地の湿潤な土地に生える多年草で、病害虫に強く、とても育てやすい植物です。開花期は７月～９月で、盆花（ぼんばな）や精霊花（しょうりょうばな）という別名もあり、お盆には欠かせない花の一つです。

⑥ミソハギ

『オオシロカラカサタケ』に注意！

●この時期、園内の芝生の場所に『オオシロカラカサタケ』という白い毒キノコが生えています。食べると危険ですので口にしないようご注意ください。

⑧オオシロカラカサタケ

●3密を避けるなど、コロナ対策をしっかり行い、熱中症に気を付けながら公園を楽しみましょう！

【発行】(一財) 古河市地域振興公社 古河公方公園（古河総合公園）　〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1　電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。　古河公方公園　検索